

農家今昔物語

こいぶみの前身「ひろしまる倶楽部」の表紙を飾ってくださったみなさんを、10年経過した今、再び訪れて「今」を話していただきました。



2010

吉山で育んだ絆を これからも大切にしたい

安佐南区沼田町吉山 なかた 中田賢志さん・麻里さん

広島市の中心部から北西に位置する安佐南区沼田町吉山に、中田賢志さん・麻里さんが経営する中田農園はあります。現在、ハウス13棟39畝で、ハウレンソウを中心に、シュンギク、コマツナを栽培しています。主力のハウレンソウは、秋から春にかけて16トを市場出荷しています。

賢志さんは、安佐北区白木町の中川農園や広島市の「ひろしま活力農業」経営者育成事業で農業の基礎を学び、

「自分に合っている」と確信して、平成20年に就農。その後は、夫婦二人三脚で農園を経営してきました。

「自然とともに生きたい」と思い賢志さんが農業を志したのは、大学在学中。担当教員から農業を職業として勧められたことがきっかけでした。また、麻里さんも、周囲に心配されたそうですが、勤めていた会社を辞め、就農する賢志さんを支えることに。その後、吉山に居も構えました。これまで「がむしゃらに働いてきた」というお二人ですが、大切にしている生産へのこだわりがあります。それは圃場をよく観察すること。「病気や害虫が見つければすぐ防除。結果的に農薬の散布回数が減る。早期の防除は一番の「農薬」と賢志さん。また、



2020

賢志さんは「できることは何でも」と、故障した農機の修理や、のこぎり鎌の目立てなど、普段使う道具の手入れも行います。

二人のお子さんにも恵まれ、吉山には特別な想いが芽生えました。麻里さんは「安心して働き、子育てできる環境に感謝」と言い、「就農するまで縁のなかった吉山に住み、首農できるのも、地域の人たちのおかげ」と賢志さんは言います。感謝の気持ちから、町内会の川や山の清掃活動に参加したり、近所の草刈りも積極的にを行っています。今後の夢を伺うと「夏に綺麗なハウレンソウを出荷した

い」と賢志さん。地域との絆を大切にしながら、夫婦揃ってこれからも挑戦し続けます。



▲吉山で生まれたお子さんたちもこんなに大きくなりました。



▲賢志さんが目立てした鎌と、使込んだ鎌。道具は大切に使っています。